

飯舘村報告会 分科会報告 Bグループ：山田豊君を囲んで

〈概要〉 飯舘村青年・山田豊君を中心にして、畜産農家として飯舘牛を育ててきたご本人とご家族が今後どのような生活を展望しているかをお聞きした。

記録をとってくださったのは明治大学 4 年生佐々木君。豊君の話を聞きたいと集まったのは、本会会員の野々垣・鮫島・大塚・土井他であり、大永が進行係を務めた。

ここでは、豊君が今後飯舘村とどのような関係で生活しようとしているかをこもごもにお聞きし、どのような支援ができるのかを考える場となった。

◇震災前の山田家

- ・山田家は村の中央部・松塚集落で、飯舘牛の繁殖を中心とした農業を行っていた。畜産のほかに葉タバコ・ブロッコリー生産などの複合的農業を行っていた。家族構成は、両親と祖母、兄と牛30頭、豊君は結婚していて（現在）32歳、5歳と3歳の子供がいる。
- ・父君は現在65歳、区長経験もある地域の名家である。

◇震災後は分散居住

- ・父君一家は、福島県中島村（飯舘から南へ2時間）に避難し、現在30頭の繁殖牛を育てている。牛の繁殖で9カ月間育てて仔牛を販売する事業に取り組み、30頭を育てている。福島県産のハンデがあり、5～10万円／頭にしかならないが、畜産は父上の意地ようだ。
- ・現在、中島村から飯舘村により近い飯野町の養鶏場跡で繁殖牛に取り組む準備をしている。父上の考えでは、除染が済んだからどうぞと言われても営農は困難である。飯野町と飯舘村の両方で繁殖と牛による農地管理を進めて、次代につなげたい考えである。

◇豊君の現在の仕事と将来計画

- ・豊君は震災後、消費者サイドからの肉質に興味を持ち、自分でお肉屋さんにご連絡を取り現在は京都の精肉店に勤務している。
- ・精肉店店主の指導もあり、現在、福島市内での精肉店開店をめざして土地を探している。子供（5歳と3歳）もいて放射能問題から福島に戻ることに反対であった妻君も福島市での精肉店出店には理解をしてくれたそうである。
- ・2年後には、福島市で精肉店を開業し、飯舘村あるいは近郊で畜産再開する父君の所を歩き来しながら、将来的（10年後か）には飯舘村に戻ってきたい、豊君の言である。

◇意見交換

- ・とつとつと語る豊君の現在の苦悩と将来展望が行き来するため、彼の将来設計を把握するのに時間がかかり、質疑にやや行き違いも生まれたが、畜産業と農家の課題を知り、これから考えなければならないことが見えてきたと考える。
- ・豊君の話を聞いて参会者から次のような意見・感想が出され、意見交換が行われた。
- ・安全性と消費：精肉の安全性を主張するには、肉の検査はもちろんだが、自分たちが自信をもって“食べる”ことから始めるべきではないか。給食問題も含めて。
→豊君：消費者の需要も変化してきており、消費者に求められる肉質の追及も必要である。
- ・飼料の安全性：国は土手草を飼料とするのはダメと言っている。牧草地・土手等の除染を進めないと畜産の再開は困難である。また、田圃に飼料米を生産することには一定の支持があるが、畜産農家と稲作農家の連携が課題となる。
- ・環境の除染：田畑だけでなく、牧草地・原野など村の環境全体の除染が行われないと、帰村・生活再建はできない。

◇まとめ

- ・分科会は、畜産農家である豊君の生活再建問題を中心に、ご家族の居住と営農、畜産再開の条件などに及んだ。もとより解決策が得られるものではないが、課題の重さと時間の流れ、飯舘村と周辺居住の問題などの課題は共有できたと思う。
- ・村の主要産業のひとつであった飯舘牛の再開にむけて、何が必要で何がわれわれに可能か、考えていきたい。

以 上